

Q17 個々の課題や困難を把握できても、それをどのように指導するか分かりません。



特別支援学級担任

個々の課題や困難さを把握することはできるものの、それをどんな手段を用いて解決していけばよいか判断できません。



通級指導教室担当

実態に合う自立活動ができていないか疑問で、自信がありません



特別支援学級担任

指導の具体例がたくさんあると参考にしやすいです。具体的な実践例が知りたいです。

A 指導内容と教材を基に、いくつかの活動を組み合わせて、1時間の学習活動を設定しますが、下記①～③に留意して学習活動を工夫します。

①児童生徒の得意な面を生かせるような活動を仕組みましょう。

学習上や生活上の困難に対して指導しますので、苦手なことが学習の課題となります。しかし、例えば、自閉スペクトラム症の児童生徒には、絵やイラスト、動画の視覚情報を使って考える活動を仕組んだり、多動な児童生徒には活動を細切れに設定したりと、得意な面を生かすことで、取り組みやすくなります。

②活動的な活動も取り入れましょう。特にゲーム的な要素があると、楽しく取り組みます。

ワークシートに書く、ビーズを繰り返してつなげる等、机上の活動だけだと、児童生徒も意欲が減退します。ロールプレイや粗大運動等の体全体を動かす活動や双六、かるた等のゲーム的な要素がある活動、ペアトークやグループ協議等の話し合い活動等、活動的な活動を組み合わせると、最後まで取り組みます。

③実際生活とつながった活動も取り入れましょう。

Q16の教材設定と同様に、単に基礎トレーニングや机上の学習だけでなく、学習上や生活上の困難の場面を想定した活動を取り入れ、実際生活とのつながりを持たせると、何のためにするのか児童生徒が意識できます。

実践事例も書籍やインターネット上でたくさん紹介されています。それも参考にし、上記①～③に留意して自校の児童生徒用に工夫してみましょう。

下記サイトに、実践事例が多数紹介されています。



←大分県教育センター  
「特別支援教育 実践事例」



国立特別支援教育総合研究所→  
「特別支援教育教材ポータルサイト」

